「人権教育指導者研修会参加報告」

東郷町の人権教育推進活動の発表は、「考えよう相手の気持ち 育てよう 思いやりの心」をテーマに、身近な絵本使って児童に向けて取り組んでおり、大変興味深いものでしたので、紹介したいと思います。

『ええところ』という絵本です。

主人公のあいちゃんは、「わたしって ええところ ひとつもないなあ」って思っています。背は低いし力も弱い。走るのも遅いし声も小さい。100点なんか1回もない…友だちのともちゃんは「そんなことないよ！」って、あいちゃんの「ええところ」を一生懸命考えてくれました。

一晩かけてともちゃんが見つけたあいちゃんの「ええところ」は、「手があったかいところ」！すっかり嬉しくなったあいちゃんはクラスのみんなの手を温めてあげます。けど、そのうちにあいちゃんの手は、冷たくなってしまい、「どないしよう。あつというまに、わたしのええところがなくなってしまった…」目には涙があふれます。

「自分の手が冷たくなるまで、みんなの手を一生懸命温めてくれたやろ。みんなにやさしいのがあいちゃんのいちばんええところや。」ってともちゃんは言うてくれました。あいちゃんは気づくのです。私のええところを一生懸命考えて見つけてくれたともちゃんがいちばんやさしいんやって。そして、決心します。「ともちゃんみたいにほかの子のええところをいっぱい見つけて、いっぱい言うてあげるねん。」って。

読み終わったあと、読み手も聞き手も、心があったかあ〜くなる絵本です。

東郷町では、放課後子ども教室で読み聞かせを行ない、感想を共有して、身近な人の「ええところ」を見つけ合いっこしたそうです。

人権が尊重され差別や偏見のない社会を目指し、実行できる人となるには、難しいことではないのかもしれませんが。みんな違って当たり前。人は人としてみな同じ。私たち大人は、子ども達の手本となり、時にはこんな素敵な絵本を読んであげながら、「ええところ」をみつけあって、思いやりや優しさの輪を広げて行けば、差別のない幸せな社会になるのだと思います。